

厚真町総合教育会議 会議録

【開催日時】 令和6年1月24日（木）午後3時00分

【開催場所】 青少年センター研修室

【出席者】 町：宮坂町長

教育委員会：遠藤教育長、長門職務代理、金光委員、池川委員
日西委員

（事務局） まちづくり推進課 宮下課長

教育委員会生涯学習課 阿部課長、乾参事、龍崎主幹

【協議事項】 （1）部活動地域移行について
（2）小中学校のエアコン整備について

【会議の概要】

（1）部活動地域移行について

町長

部活動地域移行とあるが、現実の部活動と整合がとれていないと思われるが、先進地の取組を参考とするなど、教委が構想している点が保護者等に伝わっているのか。受け皿のイメージが見えているのか。

乾参事

小中学生の統合型クラブとして、専門性を持たない形で様子を見ながら段階的にスタートし、令和6年以降は、陸上等の具体的な種目において指導している状況もあり、指導者の確保など、両地区含めて事務局的部分においては統合型クラブとして機能させたいと考える。

町長

小中学校を併せて、指導者が揃った時点でスタートしていくことか。

乾参事

調整がつき次第と考えている。最終的には平日休日問わず実施できる体制をつくり、教職員の働き方改革にもつなげていきたい。

町長

一度始めると、戻る事は難しいと思われる。様子を見ながらの動きでは、保護者が離れてしまう可能性も懸念される。過去の事例からも同様のケースがあったと記憶している。

児童と生徒は区分けして考えて、体制が全て整った時点で移行とするのが良いのではないか。

中学校では専門的な指導者が必要であると考えてるので、あえて統合型にする必要性を考える必要がある。保護者の理解も深める必要もある。

乾参事

他市町の子どもたちも含まれる種目もあるので、近隣自治体と調整していきたい。

町長

こどもの人数も関係するため、近隣自治体と調整し専門性の高いクラブを目標にしていくことは良い事である。

時間をかけて話し合っていく必要があると考える。

乾参事

様々な意見を受けて、体制整備を進めて行きたい。

池川委員

ニーズ調査（アンケートなど）は実施しているか。

こどもの送迎問題もあるので、ボランティアの体制づくりなど、参加しやすい環境の構築も必要ではないか。

乾参事

課題などは見えているので、学校等と調整している。今後も課題解決に向けて進めていきたい。

池川委員

教員の副業は認められているか。意欲のある先生を取り込めば進んでいけると考える。

作田参事

副業は認められている。

町長

学校ではどの程度切迫感をもっているか？

乾参事

種目によるが、早期対応を求めているところも見られる。

町長

特定の種目においては、指導者の熱意で進んでいる所も見られる。

送迎問題や課題など、指導者によって違いがあるので、保護者が預けたいと思わせる体制が必要ではないか。

優秀な指導者の点から見れば、近隣自治体との連携は重要であると考えます。

乾参事

現状を踏まえての環境の整備、近隣自治体を含めた指導者の活用検討など進めていきたい。

町長

地域の協力ばかりではなく、きちんと制度化していくことが優先と考える。

長門委員

スポーツ庁が見ている将来像と、町の実態が違うと思われる。地方自治体は財政事情や指導者の問題など非常に難しい事案と捉えている。

まず現状を正確に把握・理解し、正しい情報を発信するのが行政の役割で、その情報をもとにできることを進めて行けば、時間を要しても部活動が活発化していくのではないかと考える。

町長

子どもたちに文科省の求める体制に無理に進めるのではなく、環境が整った状態で移行していくことが大切であると考えます。

池川委員

今ある環境を充実させて、モデルをつくり、他に波及させていくことが良いのではないか。

町長

池川委員の意見どおりで、出来上がっている所に力をいれて、活動の幅を広げるなど、ひとつひとつに注力していくのが良いのではないか。

池川委員

子どもたちが参加できる環境づくりが重要であり、交通環境等が良くなれば機会も参加増加すると思われる。

地域的にも、このような所に行政が力をいれていくところではないか。

町長

親の積極性によるところが大きいですが、このままとするのではなく、予算面等含めて行政でできることを考えていかなければならない。

課題は様々あるが、試行錯誤のうえ取り組んでいきたい。

教育長

3 町では、連携体制の話はしている。様々な体制があるので、部活動からの現状維持あるいはその先を目指すうえで、町内のみで実現するのは難しい面があるため、近隣町の範囲などで良い指導者、事業者へつなげることも必要と考える。

町長

多様な体制をつくり、小学生の体力づくりを目指すことは理解できるが、中学生とは観点が違う点に留意が必要である。

教育長

体力づくりは重要なことであるが、結果を残すための取組である場合は共同は難しいと思われる。

宮下参事

近隣町では、多世代他志向型を目指して、大人向けと子供向けを分けて取組を行っている事例もある。

数種類の活動を集めて、それぞれに指導者が配置され、そのうち、陸上は厚真となっている。

こどもの体力づくりはイベントとして実施している。

池川委員

環境ができてい場所があるなら、参加できる環境をつくっていくのが、こどもを育てる観点から良いのではないか。

長門委員

自己完結を目指す必要はないのではないか。子どもたちの環境づくりが重要である。

乾参事

自己完結型を目指しているわけではなく、近隣町とつなげる調整の意味も含めて、統合型と名称している。

池川委員

近隣町へ子どもたちを送迎して参加してもらい意見を聞くなど、試行も良いのではないか。

長門委員

子どもたちに機会を与える手段を広げていくことが行政として必要な活動ではないか。

町長

様々な課題に挑戦したい気持ちはわかるが、現在の子どもたちの3年間は大事な時期であることを念頭に進めていただきたい。

教育長

部活動の地域移行は、全国的に取り組していくもので、目標として3年間としている。

町長

種目の選定・指導者の配置、近隣町の連携も含めて、まずは陸上からなど着実に進めることが必要であると考えます。

乾参事

目標の中で、バドミントンを考えている。現状の素地を伸ばしていきたい。

(2) 小中学校のエアコン整備について

町長

計画的な工事行程ですすめていただきたい。

長門委員

他市の大型事業で人員不足が深刻化していると聞いている。

阿部課長

校舎自体の電力量の関係から、根本的な電気工事が必要であるため、相当の期間を要する見込みである。

町長

長期休業期間の見直し状況は。

阿部課長

北海道の規定と同じく、夏期・冬期の休業日数を50日間から56日間に改正を行った。これまでは夏期・冬期ともに25日間の休業であったが、令和6年度は夏期休業を30日間、冬季休業を20日間で決定している。

授業時数の関係もあり、56日間に変更するのは令和7年度以降に検討する。

【閉 会】 午後5時00分